

日本の展望委員会（第10回）議事要旨

1. 日 時：平成22年2月26日（金）17：00～19：00
2. 場 所：日本学術会議 5－C（1）会議室
3. 出席者：金澤委員長、広渡副委員長、海部幹事、大垣委員、鈴木委員、
秋山委員、北島委員、柘植委員、藤田委員、山内委員、
猪口委員、河野委員、笠木委員、大沢委員、武市委員
（欠席：唐木幹事、浅島委員、岩澤委員、土居委員）
（事務局）竹林局長、古西参事官
4. 議 題：
 - 1) 前回議事要旨（案）の確認
 - 2) 作業分科会提言・分野別委員会報告の査読結果の確認
 - 3) 「日本の展望－学術からの提言2010」（最終案補正版）の検討
 - 4) 「日本の展望－学術からの提言2010」に基づく「勧告」（案）の検討
 - 5) 「日本の展望－学術からの提言2010」の要約版（日本語・英語）の作成について
 - 6) 今後の進め方について
 - 7) その他
5. 資 料：
 - 資料1 日本展望委員会（第9回）議事要旨（案）
 - 資料2－1 分科会提言案
 - 2－2 分野別委員会報告案（①第一部、②第二部、③第三部）
 - 資料3－1 「日本の展望－学術からの提言2010」（最終案補正版）
 - 3－2 「日本の展望－学術からの提言2010」（査読提出版）
 - 資料4 「日本の展望－学術からの提言2010」に基づく「勧告」（案）
 - 資料5 起草分科会の今後の進め方について（案）
 - 参考1－1 「日本の展望－学術からの提言2010（素案）」の意見聴取手続きおよびそ
の後の取組みについて
 - 1－2 各作業分科会提言・テーマ別検討分科会提言（案）および
分野別委員会報告（案）の査読について
 - 1－3 日本の展望関係提言・報告フォーマット
 - 1－4 表記の統一について（参考）
 - 参考2－1 勧告案の考え方と作成の手順について
 - 2－2 「勧告」に係わる事項の検討について
 - 参考3 「日本の展望－学術からの提言2010（案）」の要約のための資料
 - 参考4 第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言
 - 参考5 委員名簿

6. 議事概要

(1) 前回議事要旨（案）の確認

前回議事要旨の確認がなされた。

(2) 作業分科会提言・分野別委員会報告の査読結果の確認

分科会提言案は日本の展望委員会担当委員の査読と、各分科会の修正を経た最終版となっており、分野別委員会報告案は、各部の査読と各委員会の修正を経た最終版となっていることが確認された。

印刷のための最終確認（査読ではなく、誤字脱字や文章の完成度等の確認）を、日本の展望委員会のメンバーで分担し、3月10日までにを行うこととした。特に確認する項目は、以下のとおり。

- ・ 分野別提言のタイトル「〇〇からの提言」に統一。
- ・ テーマ別提言のタイトル「内容に即したタイトル」を残した表題にする。
- ・ 分野別報告タイトルは、「〇〇分野の展望（あればサブタイトル）」に統一

分野別委員会報告は合冊印刷され、審議経過は省略し、部長が書いた解題を巻頭につけることとなった。

委員会名簿はオリジナルメンバーのみ、関連分科会メンバーは、分科会名称のみの記載とし、執筆協力者がいる場合は、最後に明記することとなった。

第90回幹事会において、分科会提言及び分野別委員会報告の幹事会承認については、本委員会に一任（本委員会の決定をもって幹事会承認とする）されることとなったことが報告された。幹事会のメンバーには、提言・報告の最終版を、CD-Rにてお送りすることとなった。

(3) 「日本の展望－学術からの提言2010」（最終案補正版）の検討

副会長の査読をもとに最終補正した提言本体の最新版について、広渡副委員長から説明があった。4月の総会まで時間があるので、最終的な補正のご意見は随時受け付け、最終版確定は委員長に一任することとなった。その後、3月25日の幹事会に提案し、4月の総会にて採択を行うこととした。

(4) 「日本の展望－学術からの提言 2010」に基づく「勧告」（案）の検討

広渡副委員長から資料4に基づき、原案の説明があり、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

- ・ 「勧告」にふさわしい表現で、かつメッセージを絞り込み、パンチ力のある仕上げにするべき。
- ・ 学術への長期的な投資の必要性が、他の投資分野にまさるという論を明確に展開したい。
- ・ 若手研究者の競争や被評価が及ぼす問題について盛り込まれるべき。
- ・ もっと深く議論を重ねて、10月総会のタイミングでとりまとめるのはどうか。
- ・ 「将来（未来）世代の育成」の部分は重要だが、「勧告」という性質になじむのか。3つの柱と同格ともいえない。

- ・ 教育や研究や社会の基本的な将来デザインを、理想的な展望につなげるためのメッセージを入れるべき。
- ・ 学術政策の必要性和研究者の育成に絞れば、シンプルでわかりやすいのでは。

(5) 「日本の展望－学術からの提言2010」の要約版（日本語・英語）の作成について

広渡副委員長から、提言本体の概要図等に成立の経緯等を加えたわかりやすい要約版を作成してみてはどうか、との提案があった。

意見交換の結果、要約版が良いか、ポスター形式が良いかについて、引き続き検討することとなった。また、原案作成については、笠木委員と大沢委員にご協力頂くこととなった。

(6) 今後の進め方について

広渡副委員長から、今後の進め方について、以下の通り説明があった。

- ・ 13分科会提言及び31分野別委員会報告については、3月10日までに、日本の展望委員会の担当委員による最終確認を行い、印刷を行う。
- ・ 展望本体については、補正の後、3月25日の幹事会に提案する。幹事会后、事前に会員に配布する。その後、4月総会に提案し、採択を行う
- ・ 勧告案については、起草分科会で引き続き検討する。
- ・ 提言等の内容を普及するためのシンポジウム等が今後の課題となるが、4月以降に審議したい。

以上